



朴瀬小学校  
教諭  
谷内由起子

## これが私の 指導法

～知的財産の継承～

本校の研究主題は「主体的に学び合う子どもの育成」です。「主体的に学習を進めていく力」と「自分の考えを広げたり深めたりする力」を育てる指導を重点に取り組んでいます。

谷内由起子

今年度担任している1年生に対して1年生なりの主体的に学ぶ姿を求めて、4月から実践してきたことを紹介します。

### ①学習リーダーの活用

6人の児童全員が学習リーダーとして活躍できるように、日直の日に学習リーダーを務めさせています。毎朝、リーダーの合図で教室に掲示している国語の教材文を音読しています。音読に自信を付けるとともに読み解く力も身に付き、国語の学び合いにつながっています。声を出すことで、学級に

活気が生まれます。集会などの感想発表もリーダー役の子どもが交代で行っています。1年生なので初めは臆していました。今では全員が自分の言葉で発表できるようになりました。ホワイトボードに活動予定を示すと、リーダーのかけ声で取り組めるようになりました。担任が来る前に学習発表会の練習を自分たちで進めている姿に感激もしました。日常の中の主体的学び合いで子どもたちは確実に高め合ってきています。

### ②短作文の取り組み

生活科の観察や行事作文に、五十音表を活用させながら早い時期から取り組みました。時間がかかりましたが、話を引き出しながら、言葉を字に書き表すことを継続しました。個人差が大きく対応が大変ですが、個の語彙力の高まりを感じています。

今後は、本時の流れを確認しながら自分たちで学習を進めていくことができるように育てたいと思っています。

## 我が校の実践

能代第一中学校

教諭 平澤 寿枝

### 『研修のかたち』

ある刑事ドラマの中に「事件は会議室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ！」という名台詞がある。問題を発見したら全力をあげて実質的に解決する。この主人公ほど熱くはないが、本校にも同じような感覚がある。

先日行われた特別支援教育の研修会では、学級指導の中で特別な支援を要する生徒にどう対応していくか、具体的な事例をもとに考えを出し合い、「書く分量の工夫」

「困り感をもっている生徒の心に寄り添う言葉かけ（OK等）」というゴールを見付けることができた。翌日から即実践である。そして、それぞれの実践の成果を「生徒を見合う会」で確認する。この会では校長と空き時間の職員とが授業を一巡し、「現場」で対話型のミニ研修を行う。教師ではなく生徒の姿を見て、私たちの実践を検証するスタイルである。

4月には、活気ある学習の雰囲気づくりのため、「未来を掴む拳手」を共通実践に掲げた。肘がピンと伸び、勢いのある拳手、「ハイッ！」と1回返事をする。それが教室でどのような効果を生むのか、どのくらい定着しているのかは、生徒の姿を見れば一目瞭然である。焦点化・視覚化・共有化。チーム能代一中の研修のかたちはUDの視点による授業づくりの似てきたようだ。教科の壁を越えて取り組めそうなこと・変容が見て取れ

ることを1つ設定し実践してみ、それを生徒の姿を見て検証する。「現場」で得られる校長・教頭や同僚からの助言、他教科から学ぶ点、空き教室から見える生徒・学級の様子等、全てが授業改善の手がかりとなる。研修が形骸化しないよう、チームで「現場」に足を運ぶことを大切にしていきたい。



## 編集後記

先月、第12回能代っ子中学校生ふるさと会議が文化会館大ホールで開催されました。市内中学校の全2年生が集まったの開催は初めてでした。今年度、各中学校のリーダーとなる生徒たちの情熱とふるさとの能代への思いが会場いっぱいにあふれた1日でした。指導に当たられた先生方、本当にありがとうございました。今年も1年間、お疲れ様でした。来年もよろしくお願ひいたします。(M)

